

たわしの読書メモ・・・ブログ 731 [廣松ノートⅡ— (1)]

・廣松渉「マルクス・エンゲルス革命論の栞」(『読み直されるマルクス(廣松渉コレクション3)』 情況出版 1995 所収) (廣松渉・片岡啓治編訳『マルクス・エンゲルスの革命論』 紀伊國屋書店 1982 所収)

読書メモの 730 で『ゴータ綱領批判』を取り上げました。その前の 724 で『共産党宣言』の読書メモを書いています。で、以前買って積ん読していた『マルクス・エンゲルスの革命論』を思い出したのです。それは、廣松さんの「栞」の紹介文・序文的にして、マルクス・エンゲルスの『共産党宣言』からエンゲルスの遺言と称される『フランスにおける階級闘争』序文まで、マルクス・エンゲルスの革命論に関する文を編訳したものです。実は、『廣松渉著作集十五卷』の小林昌人さん作製の「著作目録」に当たり、廣松さん死後『著作集』に納めきれなかった論文を集めた『コレクション』の『コレクション3』に掲載されていることを知りました。コレクションは一応全部目を通していて、発刊当初に読んでいたのですが、忘れることを特技にしているわたしはすっかり忘れていました。ざっと目を通して、丁度『共産党宣言』から『ゴータ綱領批判』までの歴史・論争を、『ゴータ綱領批判』での望月さん「解説」よりもより詳しく展開しているので、第二次[廣松ノート]の最初に廣松さんの運動論三部作を取りあげるので、その序的文として読み、ノートを残して置きます。

この文は。序的な文に続き、その後に目次がないのですが、序的な全体の構成を記した文に続き、五つの漢数字(太字)からなる数字だけの節からなっています。いつものように、まさに蛇足になることを畏れつつも、これはわたしの個的「読書メモ」という性格として、目次をつけてみます。

「目次」

(はじめに、もしくは「序」)— (『マルクス・エンゲルスの革命論』) の全体の構成

- 一 『共産党宣言』までの歴史と「宣言」を巡る論争
- 二 「共産主義者同盟」の時代の歴史と論争
- 三 「国際労働者協会」の時代の歴史と論争
- 四 「パリ・コミューン」の時代の歴史と論争
- 五 『ゴータ綱領批判』の時代の歴史と論争とそれ以後

『マルクス・エンゲルスの革命論』に納められているこれらの文(一部資料としてラサールなどの文も含んでいます)は、まさにマルクス／エンゲルスの実践的な運動で、自らの主張を押さえつつ、現実的な「義人同盟」「ラサール派」「アナーキスト」等々のひとびと・グループとせめぎあい、また弾圧的なことへの対処も含めたところで、出されている文ということを押さえねばなりません。また、当時の運動情況にも左右されています。廣松さんは文献的紹介を軸にしているのですが、そこに廣松理論がいくぶんなりとも展開されているか否か、まだ、わたしは読み取れていません。この後、積ん読している本を二冊読ん

で、読書メモを残してから、廣松さんの運動三部作の[廣松ノート]で、それも検証してみようと念っています。『マルクス・エンゲルスの革命論』のマルクス／エンゲルス本文の未読の読書メモは、まだずっと後になります(機会がくるかどうかとも分からないのですが)。